

実施報告書

2022年12月10日、「第64回熊本県精神保健福祉士協会定例研修会」を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

研修名：第64回熊本県精神保健福祉士協会定例研修会

実施日時：2022年12月10日（土） 13:00～17:00

実施方法：WEB開催（ZOOMを使用）

参加者：69名（男性39名 女性30名 会員52名 非会員17名）

研修内容：「リフレクティング・トークを用いた、熊本県精神保健福祉士協会ニーズ調査ワークショップ」

1. 趣旨説明：大嶋理事

日本精神保健福祉士協会は2021年9月、精神疾患や障害の有無にかかわらず、だれもが自分らしく「コノ邦ニ生キル幸セ」を感じられる社会を共創するために、精神保健医療福祉の将来ビジョンを策定しております。このビジョンを具現化するために、3つの柱、9つの実践が必要であるとスローガンとして掲げています。この9つの実践をどのように取り組むかが今後の当協会活動の発展の鍵となるのではないかと考えています。今回実施したニーズ調査アンケートは日本精神保健福祉士協会の将来ビジョンに呼応した一つの取り組みでありました。

研修会におきましては、ニーズ調査アンケートの結果をもとに、リフレクティング・トークを用いた研修会という形で、当協会の今後の在り方についてアンケートの結果等の報告とともに、精神保健福祉の領域、障害福祉の領域、行政など様々な実践現場での想いや悩み等、対話をする機会を作り、多種多様な声を響かせ合う機会にしたくワークショップを企画しました。

2. アンケート集計結果報告：檜垣理事

アンケート集計結果を元に報告

3. 三役インタビュー

（1）岩永会長

まずは、351件と多くの方にアンケートにご協力いただいたこと、また回答の半数近くは非会員の方からご協力いただいたこと、そして厳しいご意見も率直にあげていただいたことに感謝するとともに、とても意義あることだったと

感じています。

今回のアンケート結果の自由記述の部分で特に協会活動に対して、つながる場がもっとほしい、つながり支え合うことを望んでいる声が強いことを感じました。協会として今までの総会や研修会の場で多くのつながりを大事にしてきたことと私自身も現場で働いている時に職場内だけでなく、それ以上に協会のつながりに支えられて成長させてもらったことを感じています。ただそのつながりもコロナ禍の中で難しくなってきたこと、またアンケートの自由記述にあったように子育て等なかなか研修会等に参加が難しい方のつながりの場が作れていないことが課題だと感じています。自由記述にもどなたか書いてくれたように今回のアンケートも一つのつながりを作るきっかけになったであろうし、従来の総会、研修会のつながりに加えて新たなつながりのあり方も模索していく必要があるように感じています。

(2) 中野副会長

①男女比

女性会員の割合が多いため、女性が活躍できる機会をさらに拡大する必要性を感じました。

②会員・非会員

回答の44%が非会員の方からでした。

協会活動への関心の高いようです。

③都道府県の専門職団体への所属

拠り所を持っていない非会員の方が多いと感じました。

当協会がその担い手になればと思います。

④ホームページの活用

活用してない人が76%と多数でした。

情報交換のツールが必要と答えた人は90%に上ったのに対し

ホームページがその期待に応えられていないのが現状です。

協会や会員の活動を支えるために有効活用できるホームページとなるようできるだけ早く、整備に取り掛かる必要があるように感じます。

⑤会費の問題

現在の会費は、2000円/年ですが、これに対し、様々な意見があります。

他県と比較すると安いとは思いますが、活動をさらに強化するには、会費の見直

し検討も必要かもしれません。

現在、県協会は日本協会支部と一体となり活動をしています。その理由は二つあり、まずは日本協会との連動性のためです。

もう一つは、県協会と日本協会支部を分ければ、活動費が乏しくなり、現在より活動に制限が生じる恐れがあることです。

この件をどうするかは、答えが見いだせていません。皆で知恵を出し合う必要があります。

⑥ブロック活動

会員同士のネットワークが必要という回答が 9 割を超えているのに対し、各地域の精神保健福祉士のつながりが希薄と感じている方が多く見受けられました。ネットワークの構築のために、ブロック活動を検討する必要性を大いに感じました。私も多くの皆さまとの繋がりに大変感謝しています。常に、私や、クライアントを支えていただいています。

今回、アンケートに回答された方の 4 割が、専門職団体に所属されていませんでした。是非、当協会に所属していただき、様々な意見を交わしながら、共に活動できたらとても嬉しく思います。

(3) 大関副会長

①日本協会と県協会・県支部との関係について

今回のアンケートでもわかるように精神保健福祉士の職域が広がっています。職域の広がりに伴い、その職域で働く精神保健福祉士の数自体は少なくなることとなります。その職域で声をあげたり、より専門的な学びを得たいと思った場合、熊本県内だけでは仲間や情報が少ない状態となります。そういう時には、九州さらには全国の仲間との繋がりが必要になると考えます。アンケートの中の県協会に期待することとして、会員は「質の向上」、非会員は「地位の向上」に期待するという結果がありました。県協会並びに日本協会に所属して多くの仲間と繋がることの意味はあるかと思っています。

②研修について

以前、事務局長をさせて頂いていた時から気になっていたこととして、圏域によって会員数に大きな開きがあるということです。原因の一つとして考えられるのは、研修会が熊本市内で開催されるため、他の圏域からの参加が難しかったこともあるかと思っています。アンケートの協会活動に期待することという質問で、もっとも多かったのが「研修会の開催」でした。コロナ禍となり、現在は研修会や総会報告会などをオンラインでおこなっていますが、参加しやすい開催方法と

して「オンライン」「ハイブリッド」がアンケートでも多数を占めておりましたので、今後もいろいろな圏域の方が研修に参加しやすいように、教育研修委員会の皆さんと相談しながら研修会を企画していければと思います。

③世代間のギャップについて

アンケートでは、多くの方が「世代間のギャップ」を感じながら、また同じように「世代を超えた交流会の場」の必要性を感じておられ、精神保健福祉士としての人とのつながりの大切さを求めておられると解釈しました。これまでの熊本県協会の総会や総会研修会の参加率は、全国的に見ても非常に高く、熊本の特徴の一つでもありました。集合型の集まりも工夫しながら大切にしていきたいと考えています。

4.グループワーク①及び発表

(1) 中央区；研修会の重要性に関して、職域の広がりがあり PSW だけでも所属する機関のちがいで想いも違う面も出てくる。職域が違ってもそれら(どれを指すか私のメモでもわかりませんでした)のつながりが必要。一人職場も多く、つながる場として、ブロックでの活動や集うことが大切かも。まずは集まって話することからでもいいと思う。つながりへのサポートをして欲しい。女性の(グループの言葉をそのまま使用したがいいのかもしれませんが、「子育て中の方には」などの表現が良いのかもと思いました)研修会参加には託児所の設置が必要。熊本の PSW から法律や政策への発信をするため、国会議員が出るべき。通常の研修会の形は敷居が高く感じている。自由に話せる場、つながりの場の提供を考えて欲しい。

(2) 北区；アンケートが良かった。ニーズが拾えた。会長の話で“つながり”という言葉が印象に残っている。プラットフォームとしての役割をもってもらえるといい。理事会の中身が見えないということに関して、例えば“ゲスト会員”が参加するなどを試みてはいかがだろうか？。入会を勧めたいが70%ある。これは会員の満足度が高いということ。研修に対しては、オンラインやYouTubeなどを活用してもらえると嬉しい。また、育児などで長時間の研修会には参加できないこともあるので、短時間の研修会などあれば女性(育児中の方)は参加がしやすいのではないだろうか。職場の理解があれば、平日日中の時間帯での開催がありがたい。また、対面の研修を再開して欲しい。対面で同世代の研修もいいと思う。

(3) 南区；研修の話題が多かった。地域ごとの開催や青年部などを作り、そこ

で意見交換された内容を反映して企画されるといいかも。小さな事例検討会などをブロックのシステムにはいいかも。困っていることを持ち寄って気軽に集まることが出来たらいい。例えば南区で集まりがあるなら行きたいと思うかもしれない。そこを協会でバックアップしてほしい。

(4) 東区；子育てで研修に参加しづらいので、オンラインはありがたい。今日の参加も迷ったが、事務局から途中で抜けても構わないと言ってもらってホッとした。(案内に途中で抜けてもいいという記載があると助かる) オンラインを残してほしい。ブロック単位であれば気軽に参加しやすいかも。ホームページ上で研修会の動画を見ることができたらいいと思う。会員のみ講義動画を視聴できるというような特典が欲しい。地域の特性も考慮し理事を地域ブロック選出にてはいかがだろうか？。地域ブロックで気軽に参加できる集まりがあればいい。

(5) 西区；コロナ禍で入職し、つながり方に迷っている。先輩に付いて行って名刺交換などができなくなった。協会がどのようなところか知りたい。各世代のつながりを作ってほしい。対面交流がない中、協会としての拠り所がどんなことか感じられない。どう考えたらいいか？。座談会のような集まりがあるとよい。日本協会のことを知る一つとして、会費がどのように使われているかなどお金の流れが見えると理解しやすいかもしれない。

(6) 宇城；グループは、経験が少ない方が多かった。フィールドの違いや資格1年目、精神科医療機関以外のPSWの専門性について考えた。フィールドが違う中、何ができるのか？職能団体に入るメリットがわからない。アンケートによって同世代などの分布がわかった一方で、何をしているのか知りたい。日本協会を通して県協会からも他県の研修に参加できたり情報収集できるようになると嬉しい。情報発信が不足している。協会が各ブロック活動のきっかけづくりをしてもらいたい。非会員の人に参加できる場が必要。

(7) 天草；昔は精神科医療機関で働くPSWが多かったが現在は色々なところで働いている。病院以外の職域に情報を流してほしい。平日の研修がありがたい。熊本市内までは遠く宇土あたりで研修会を開催してもらえるといいし、集合型が良い。例えば地域で研修会をする際は協会から講師として来てもらえたらありがたい。ホームページの充実として、研修会の内容など読みたくなるような記事の掲載をされてはどうか。研修会に関しては講義だけから始めてもらいたい。グループワークが苦手だよという声も多々ある。日本協会の会費が高い。県協会

だけ入会できればありがたい。

(8) 芦北水俣八代；職場で迷うことが多いので、他者に聞いてもらえると安心するのでつながりたい。他の職能団体と連携しては。新人、非会員でも分かりやすい研修会。経験年数で分けた研修や年数の浅い人の研修、職域の研修など。ソーシャルワーカーデイを地域で出来ないか？。ホームページは社会資源の共有や職場紹介動画、研修動画をアップしてはいかがだろうか？。会費については、東京と地方との会費の差別化をしてはいかがだろうか？。

ホームページの管理は、専門業者に頼んではどうか。県協会のみ参加も OK にしてみてもどうですか。

(9) 菊池；グループ内の理事の方から研修企画などの苦労話を聞かせてもらったので中身について知る機会になった。ブロックの中で研修を企画すると、関わる機会になり、人材の育成や協会の底上げになると思う。ブロック活動から人を育てていけばどうか。

日本協会の会費の件は段階的（例えば経験に応じて等）にしては。各地域ブロックで研修などを受け、自信をつけて県の研修会参加できるといいかも。

(10) 上益城；入会の魅力があったらいい。非会員の人も協会の活動を見渡せるような仕掛けが必要ではないだろうか。入会前に入会の魅力がわかるといい。ウェルカムな雰囲気を作ってほしい。女性に優しい会であって欲しい。話を聞いてみると役に立つと思う。集合型の研修もいいところがあった。参加時に雑談することが重要だった。また入会の声かけをしてもらっていた。会全体で内輪感がありすぎる。

(11) 有明鹿本；メリットを感じられない。入会へのアクセスがわからない。日本協会の会費 15000 円が高い。会費がどう活用されているか見えづらい。オンラインはありがたい。一方で集合型をつながりを持ちたい。集合型ならではの名刺交換で繋がれる。オンライン上視聴。同じ研修を数回実施してもらいたい。ライフステージの変化に応じた対応や研修。託児所だけでなく子供をつれての参加も可能になればよいのではないか。勤務時間内の研修。

5. グループワーク①の意見を聞いて

(1) 檜垣理事

キーワードとして、「職能団体に入るメリット」「熊本市内が遠い（私が入吉在住

だから)」「見たくなるようなホームページ」「会費が高い」が浮かびました。

① 熊本市内が遠い(人吉から)

いろんな研修が熊本市内で開催されることが多く人吉から行くのに時間もお金もかかる。コロナが落ち着いて(から：省く)もオンラインでの研修が今後もあるとありがたいと思います。

② 職能団体に入るメリット

私自身援助職の資格を持たず精神科病院に入職しクライアントに対して職員の指示に従うような関わりをしていた。本来クライアントが持っている力を引き出すのが精神保健福祉士の仕事と思えるようになったのは、協会とスーパービジョンのおかげでした。

県協会の岡田顧問から、精神保健福祉士が国家資格化になるまでのプロセスを聞く機会があった。それ以降会費が高いと思わなくなったし協会に入ってブラッシュアップし続けたいと思えるようになりました。

(2) 竹下理事

皆様からの意見がすごく建設的で前向きなものが多くあり、ありがたく思います。グループの発表をされている皆さんがいい顔、表情をされており、グループ内でも仲良く意見交換されたのではないかと感じました。語り合える、言い合える雰囲気、この協会の魅力だなと感じました。

(3) 大関副会長

ホームページについて、アンケートでも「活用していない」「あまり活用していない」という方が非常に多い状況でしたので、ホームページの活用を促せるような取り組みが必要だと感じています。また、協会の活動状況が見えにくいという声もいただいております。広報委員会の皆さんに協力してもらいながら、求人情報や研修会の情報とともに、協会としての取組や活動状況なども共有して、ホームページの活用が広がっていければと思います。

(4) 中野副会長

日本協会も会費については検討されていますが、まだ減額には至っていない状況です。私は以前ある方から“給料の1割を自分に投資すべき”という言葉をもたらしたことがあります。一つの考え方として協会会費を自己投資と考えることもよいのではないかと思います。

(5) 岩永会長

協会に対する多くのアイデアを出していただき感謝しています。協会に対

する思い、関心を感じる事ができ、皆さんの声を心強く感じました。また会員の方が協会をどのように感じ、非会員の方からもどのように見えているのかなども感じる事ができたように思います。

若い人の日本協会の会費の件もあがってきていましたが、日本協会も若年者減免制度を実施していたことがあったり、先ほどの中野副会長の日本協会の話など、もっと日本協会の動きやメリットなども非会員の方も含めてもっと発信していく必要があったように思います。

また先ほどの檜垣理事からの国家資格化のプロセスの話で思い出したのが、私自身ちょうど国家資格化の時を経験していますが、当時とにかく資格が欲しいということで動いて実現したものでした。その資格ができた後の飲み会の場で当時の松岡会長が日本協会の理事の方々の中で出た話が、「この資格は私たちのための資格ではなく、当事者や家族の方が望んだ当事者や家族のためにできた資格なんだ。そのこと忘れないようにしよう。」ということをお話してくれたのが印象に残っています。私たちの協会活動も行く着くところはそこにあるような気がします。今日の様々な意見がそこにつながってってくれることを願っています。

6. グループワーク②及び発表

(1) 天草；ホームページには、福祉関係のインタビューや困りごとなどを共有する場があると良い。例えば知恵袋的のもの。今日の理事との対話は貴重な時間だった。またこのような機会があると良いと思う。顔が見える意見交換をして欲しい。

(2) 芦北水俣；会長の言葉は当事者支援の意義を再確認した。入会の誘いをするアイデアや仕組みを作るとよい。非会員の声を聞いてもらえと良いと思う。

(3) 東区；ホームページは魅力あるものにして欲しい。タイムリーな情報発信をして欲しい。研修会はスーツの堅いイメージだが、ブロック単位だとラフに参加できるかも。交流会的なこと、フットサルなどイベント的なことなどの工夫をしてもいいかも。東区は地域ブロック活動のモデルになってもいい。スーパーバイズ、先程の南区の青年会というアイディアに便乗し、壮年会もあっていいのではないだろうか。

以上